

令和5年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【東宮下小学校】

⑥ 次年度への課題と改善策	
知識・技能	問題を図や絵を用いて読み取る活動や、具体物操作や実験的な活動を多く取り入れるなど、体験的な活動を通して知識を獲得する学習活動を引き続き展開する。また、授業前後で前時までの学習やミニミニテスト、ドリルパーク・スタディサプリ等の個別学習、本時の学習内容の振り返りをするなどの手法により、学習内容の定着を図るなど、基礎的な内容を繰り返す学習を通じて、児童に「できた」「楽しい」を味わうことができる学習を推進する。
思考・判断・表現	他者の考えを聞いたり、モデルを活用して、児童が自分なりの考えを必ず一つ書くことに重点を置き、学習活動を展開していく。また、オクリンクやExcelの共同編集などのICTを活用して個々の考えを交流するなど、自身の意見や考えを表現する場を設ける。また、算数・理科では図やグラフを用いたり、具体物を操作したりする活動をより多く取り入れて、児童の思考の助けとなるように継続する。
主体的に学習に取り組む態度	児童が自分なりの考えをもち、他者と豊かに伝え合う活動を通じて、主体的に学習に取り組む態度の育成を推進する。各教科の授業後には、学んだ内容について振り返らせ、互いに共有させることで自らの学びを実感させ、生かせるようにする。特別活動においては、温かな人間関係を生かした話し合い活動に重点的に取り組めるようにする。また、学習意欲を高めるため、児童の発想のよさを取り上げ、具体的に紹介して称賛し、自身の考えのよさを自覚させて自信をもたせるようにする。

① 目標・策		
	目標	策
知識・技能	令和4年度さいたま市学習状況調査と令和5年度さいたま市学習状況調査を比較し、算数の自校結果「知識・技能」において、平均正答率を3pt向上させる。	⇒ 業前時間や朝時間など短時間を活用した「ドリルパーク」や「スタディサプリ」等による個別の基礎アップにつながる学習を推進する。読み聞かせを通して、言葉の理解を深め、学習に活用できる知識・技能を身につける。
思考・判断・表現	令和4年度さいたま市学習状況調査と令和5年度さいたま市学習状況調査を比較し、算数の自校結果「思考・判断・表現」において、平均正答率を3pt向上させる。	⇒ 学校課題研究の主題を「生き生きと学び続ける児童の育成～豊かに伝え合う活動を通して～」と設定し、算数科を中心に、児童が考えたと思う問題場面を設定し、ずれや困り感をもたせ、自分なりの考えをもち、他者と豊かに伝え合う活動を通じて、思考力・判断力・表現力を高める研究を推進する。
主体的に学習に取り組む態度	令和5年度全国学力・学習状況調査「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の質問項目について、最も良い回答の割合を60%にする。	⇒ 学校課題研究の主題を「生き生きと学び続ける児童の育成～豊かに伝え合う活動を通して～」と設定し、特別活動において醸成された温かな人間関係を生かし、算数科を中心に楽しいと思える学習活動を展開し、児童が自分なりの考えをもち、他者と豊かに伝え合う活動を通じて、主体的に学習に取り組む態度の育成を推進する。

<小6・中3> (4月～5月)

⑤ 目標・策の達成状況		評価(※)
知識・技能	令和4年度と令和5年度のさいたま市学習状況調査における算数の自校結果「知識・技能」を比較したところ、平均正答率1.9ptの向上となった。	B
思考・判断・表現	令和4年度と令和5年度のさいたま市学習状況調査における算数の自校結果「思考・判断・表現」を比較したところ、平均正答率0.2ptの低下となった。	C
主体的に学習に取り組む態度	令和4年度と令和5年度の全国学力・学習状況調査「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の質問項目について、最も良い回答の割合を比較したところ、21.5ptの低下(36.4%)となった。一方さいたま市学習状況調査(生活習慣に関する調査)「授業で、学級の友達との間で話し合う活動では、話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、自分の考えをしっかりと伝えていっていますか。」では、中学年を中心に市の平均を上回る数値となった。	C

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

② 全国学力・学習状況調査結果・分析	
知識・技能	国語においては漢字など言語の知識を問う問題や、フリガナがないと読めない・読まない・読んでも理解が難しいという児童の実態から「読むこと」に関する問題に課題があり、正答率も全国平均を下回った。算数では、量や数を視覚的に捉え、立式して答えを求めるときの正答率が低い傾向にある。
思考・判断・表現	国語では「自分の考えをまとめる」等、記述する問題に課題があった。正答率も全国平均を下回り、無解答も多かった。算数では、割合や図形に課題が見られた。また、資料から必要な情報を読み取ることに課題が見られた。
主体的に学習に取り組む態度	アンケートから見ると、学習に関して半数以上は「好き」「社会に出た時の役に立つ」「大切だ」と思っており、肯定的な意見が多い傾向である。話し合いに関しては、意欲的ではあるが、「どちらかといえばそうである」という消極的な意見もみられた。

- ①結果分析(管理職・学年主任等)
- ②詳細分析(学年・教科担当)

④ さいたま市学習状況調査結果・分析			
小3	国語について、言語の「特徴や使い方を問う問題」や「読むこと」における問題の正答率が高かった。しかし、「話すこと・聞くこと」や「書くこと」において市の平均を下回った。算数については「数と計算」における正答率が高かったが、それ以外の全ての項目において市の平均を下回っている。また、児童の正答率を集計するとグループの二極化が見られるなど、依然として基礎学力の定着に課題があると考えられる。	小4	国語について、「情報の扱い方」以外の全ての項目において市の平均を下回っている。特に「読むこと」について課題が見られた。本調査の設問では説明的な文章から必要な情報を引き出す力が問われているため、単に読むだけではなく、読んで思考する力に課題があると考えられる。算数についても「測定」以外の全ての項目において市の平均を下回っているなど、依然として基礎学力の定着に課題があると考えられる。
小5	国語について、「情報の扱い方」「我が国の言語文化」以外の全ての項目において市の平均を下回っている。特に「話すこと・聞くこと」「我が国の言語文化」に課題が見られた。本調査では漢字の知識を問う問題や、敬語に関する問題で正答率が低く、言語に関する知識に課題があると考えられる。算数については「変化と関係」において正答率が高かった。しかし、「測定」以外の全ての項目において市の平均を下回っているなど、依然として基礎学力の定着に課題があると考えられる。	小6	国語について、「情報の扱い方」「我が国の言語文化」以外の全ての項目において市の平均を下回っている。特に「言葉の特徴や使い方に関する事項」に課題が見られた。本調査では文章内の主語と述語を見出したり、敬語に関する問題で正答率が低く、言語に関する知識に課題があると考えられる。社会、算数、理科については全ての項目で市の平均を下回っているなど、依然として基礎学力の定着に課題があると考えられる。

③ 中間期見直し(全国学力・学習状況調査結果分析後)		
	目標	策
知識・技能	現在の取組を継続する。ただ、国語・算数いずれも全国平均を下回る項目が多い結果となり、調査結果から掘った傾向から、次の取組が有効であると考え、実践に加える。	⇒ 問題を図や絵を用いて読み取る活動や、具体物操作や実験的な活動を多く取り入れるなど、体験的な活動を通して知識を獲得する学習活動を展開する。また、基礎的な内容を繰り返す学習の時間を設定し、児童に「できた」を味わうことができる学習を推進する。
思考・判断・表現	現在の取組を継続する。ただ、国語・算数いずれも全国平均を下回る項目が多い結果となり、調査結果から掘った傾向から、次の取組が有効であると考え、実践に加える。	⇒ 1時間に1度以上は児童が問いをもち、思考し表現させる学習を展開させていく。また、算数では図やグラフを用いたり、具体物を操作するなどの活動を通して、児童の思考の助けとなるようにする。
主体的に学習に取り組む態度	学校課題研究の主題を「生き生きと学び続ける児童の育成～豊かに伝え合う活動を通して～」と設定し、特別活動において醸成された温かな人間関係を生かし、算数科を中心に児童が自分なりの考えをもち、他者と豊かに伝え合う活動を通じて、主体的に学習に取り組む態度の育成を推進する。	⇒ 児童自らが問いをもち、皆で考えを出し合い学びを深めていく学習の楽しさを味わわせていく。特別活動においては、温かな人間関係を生かして話し合い活動に重点的に取り組めるよう推進する。苦手意識をもっている児童に対してや滞っている児童を個別に補習するなどして、誰ひとり取り残さない体制で自信をつけ、学習意欲を高める。